

稔りの風

令和4年 4月28日

校訓 公正 明朗 剛健 NO.2

妹背牛中だより

発行責任者 校長 奥山 直人
編集責任者 教頭 樽石 哲也

「心がけ」しだいで・・・

校長 奥山 直人

ある情報誌を読んでいたら、次のようなことが書いてありました。

ある学校での部活動の様子から、考えさせられました。

放課後、校舎を歩いていると、1人の生徒が難しそうな顔をしてトランペットのロングトーンの練習をしていました。その生徒(Tp)に、

「何の練習をしているの?」と尋ねたら、

「先輩に言われてロングトーンの練習をしています。毎日毎日、活動のほとんどがロングトーンで、まったく面白くありません。」

別の日、一生懸命トロンボーンの練習をしている生徒(Tb)に、

「何の練習をしているの?」と尋ねたら、

「ロングトーンの練習をしています。この楽器が私の担当で、私の音がうまく出ないと皆に迷惑をかけてしまいます。」

別の日、楽しそうにチューバの練習をしている生徒(Tu)に、

「何の練習をしているの?」と尋ねたら、

「ロングトーンの練習をしています。私たち吹奏楽部は、コンクールの他に各種行事や卒入学式の入退場など多くの出番が用意されています。だから、私たちの演奏を通して皆に元気や感動を与えたいんです。」

同じような練習をしている3人の生徒。しかし、考えていることが全く違うことは一目瞭然ですね。目標の高さと、その目標への意識に違いがあります。これは、毎日の取組の質と内容を変えていきます。

学習も練習もその多くが単調な内容の繰り返しかもしれません。ロングトーンの練習と同じです。同じように見える日常で差がつくとしたら、それは、目標の高さや意識、すなわち、「心がけ」で決まるのではないかと先生は思っています。

教職員紹介

学級担任・教科紹介・部活動

1年A組担任	角田 直之	(全学年理科)	バスケットボール部
D組担任	高木 葉子	(特別支援・全学年美術)	吹奏楽部
1年副担任	寺本 和也	(全学年英語)	野球部
通級教室	豊田 佳澄		特設部
2年A組担任	小川 晴美	(全学年国語)	吹奏楽部
2年副担任	小川 有至	(全学年保健体育・技術)	バスケットボール部
B組副担任	大竹 宏周	(特別支援)	バレーボール部
3年A組担任	佐光 力	(全学年社会)	野球部
B組担任	武田 園子	(特別支援)	バレーボール部
C組担任	藤岡 康	(特別支援)	野球部
3年副担任	小野寺三佳子	(全学年数学)	バスケットボール部
3年副担任	竹原 靖人	(全学年音楽・家庭)	吹奏楽部
2学年所属	下原 愛	(養護教諭)	野球部
A L T	カレッジ・ングウェニャ		
S C	河原 由紀		
事務	坂本 学		
公務補	石塚 毅		
事務生	大西久美子		
教員業務支援員	笹原 邦子		
学習指導員	中瀬 一穂・遠藤 美幸		
外部コーチ (バレーボール部)	星 雅之		

PTA 総会・PTA 常任委員会

4月15日(金)のPTA総会が中止となり、書面提案とさせていただきました。その結果、令和3年度活動反省、令和4年度活動計画と新役員体制について、過半数を超える(87.3%)承認をいただきました。承認用紙の提出等、ご協力ありがとうございました。

<令和4年度 PTA本部役員>

○会長 土田 大輔 さん ○副会長 鈴木 光弘 さん・加藤 智美 さん

○会計 下郷 晃弘 さん ○監事 宇野 一也 さん・山上 朋子 さん

さっそくですが、今年度の活動内容を具体化させるため、5月6日(金)に常任委員会を開催します。各学年の学年委員さん、各委員(研修・事業・生活)さんには、先日、案内を配布させていただきました。お忙しいとは思いますが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

5月行事予定

2日(月) 3年三者面談① SC来校	14日(土) 春季大会兼雨竜商工会長杯 (バレー部)
4日(水) 高畑杯(野球部)~5日	16日(月) 交通安全街頭指導日 三者面談⑤
6日(金) 3年三者面談② 尿検査(1次) PTA 常任委員会 18:30	17日(火) 内科検診
7日(土) 菅原杯(野球部)~22日	18日(水) 2年宿泊研修~19日
10日(火) 歯科検診 教推協 町P連総会	20日(金) 2年回復休
11日(水) 3年三者面談③	23日(月) SC来校
12日(木) 生徒会活動日	24日(火) 全校集会 生徒会活動日
13日(金) 1年心電図検査 3年三者面談④ 北空知P連総会(滝川市)	25日(水) 尿検査(2次)
	28日(土) 体育大会
	30日(月) 振替休業

対面式

4月7日(木)に1年生に対して、早く中学校のことをわかってもらうために生徒会活動や部活動の紹介をする対面式が行われました。生徒会の執行部が、学校行事や生徒会の各委員会のことなど、クイズなども交えながら、わかりやすく丁寧に説明していました。部活動紹介については、それぞれの活動の特徴や雰囲気が出ていて、とても良かったです。



※生徒の生活の様子等、写真を掲載することがあります。その他の目的では使用しませんのでご理解ください。何かあれば、学校(32-2445:教頭)までお願いします。

新 ALT 着任

4月20日(水)から新しいALTの先生が着任されました。ジンバブエ出身のカレッジ・ングウェニャ先生です。生徒の皆さんは、英語を勉強できる良いチャンスですので、たくさん関わってください。

My name Courage (Kareji) Ngwenya (Guwenya). I am excited to be part of Moseushi Junior High School staff as an Assistance Language Teacher (ALT). I am from Zimbabwe, a country found in the Southern part of Africa. Zimbabwe is surrounded by other countries, this mean that there is no sea in Zimbabwe.



I come from the second largest city in Zimbabwe known as Bulawayo. It is also an old city with great colonial history. Before coming to Japan, I was a Primary school teacher teaching 6th and 7th graders (equivalent to 6th graders at elementary and 1st graders at junior high school in Japan). I have been a teacher since May 2008.

I came to Japan in November of 2020 as a University student at Miyagi University of Education. My research focus was on School Safety under Health and Physical Education.

Why did I choose to stay and work in Japan?

My first impression was the Japanese people. I have shared these sentiments many times, I was really impressed by the kindness of the Japanese people. In my entire life I have never seen such a level of kindness. I can recall one incident where a Japanese young man actually took me to the train station when I was getting lost, it was a 10 minutes' walk. That sacrifice surprised me. At the same time the culture of giving among the Japanese is awesome. I just thought I could stay in such a country, hence the decision to stay and work.

My aspirations

I hope to see school children not only using English in classroom situation with me only but also within their peers and outside the school area even at home. This will help them gain more confidence in using the language.

私の名前は、カレッジ・ングウェニャです。私は、ALTとして、妹背牛中学校のスタッフの一員になれることをとても嬉しく思っています。

私はジンバブエ出身です。私はアフリカの南部にある国、ジンバブエから来ました。ジンバブエは他の国に囲まれているため、海がありません。

私はジンバブエ第2の都市、ブラワヨから来ました。植民地時代の歴史を持つ古い街でもあります。日本に来る前は、小学校の先生として6年生と7年生（日本の小学校6年生と中学校1年生に相当）を教えていました。2008年5月から教師をしています。

私は2020年11月に宮城教育大学の大学生として来日しました。私の研究テーマは、保健体育の下での学校安全についてです。

なぜ、日本に残って仕事をすることにしたのか？

私の第一印象は、日本人の方々でした。何度も言っていることですが、日本人の優しさには本当に感心しました。私の人生の中で、これほどの親切は見たことがありません。ある日本人の青年が、私が道に迷っていたとき、歩いて10分ほどの駅まで送ってくれたことがあります。歩いて10分の距離なのに。同時に、日本人の献身的な文化も素晴らしいです。そんな国でなら、自分も生きていけると思ったから、ここに残って働くことにしたんです。

私の抱負

私は、子どもたちが教室で私と一緒に英語を使うだけでなく、仲間内や学校の外、家庭でも英語を使うようになってほしいと思っています。そうすれば、英語を使うことにもっと自信が持てるようになると思います。